

小 学 校

平成 2 6 年度

教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	
1	研究構想図	4
2	教員の意識調査	5
3	実践研究	6
	低学年分科会（第2学年）の検証授業	7
	中学年分科会（第3学年）の検証授業	13
	高学年第一分科会（第5学年）の検証授業	19
VI	研究の成果と課題	24

研究主題

比較・関連付けて読んだことを基に自分の考えをまとめる指導法の工夫 ～説明的な文章を読むことを通して～

I 研究主題設定の理由

本研究は、国語科において「比較する」、「関連付ける」等の活動を位置付けた単元を貫く言語活動を工夫・充実させることで、「思考力」を高め、実生活で活躍できる児童の育成を目指すものである。

中央教育審議会答申（平成 20 年 1 月）における国語科の改善の基本方針では、「実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付ける」ことに重点を置くとしている。また、国立教育政策研究所は、教育課程の編成に関する基礎的研究（平成 25 年 3 月）において、これからの社会に求められる資質・能力として、「21 世紀型能力」を提案している。「21 世紀型能力」とは、「思考力」を中核とし、「一人ひとりが自ら学び判断し、自分の考えを持って、他者と話し合い、考えを比較吟味して統合し、よりよい解や新しい知識を創り出し、さらに次の問いを見つける力」であると定義されている。そして、「思考力」を伸ばす手だてとして、「比較する」、「分類付ける」、「関係付ける」等が挙げられている。

このような中、文部科学省が実施している平成 25 年度「全国学力・学習状況調査」小学校国語の東京都の結果を見ると、国語 B「読むこと」の正答率が 50.6%となっており、「本や文章の内容や表現を読み取り活用すること」の定着に課題があることが分かった。特に、同調査では、二つの資料（推薦文）を比較・関連させて、自分の考えをまとめるという言語活動を想定した問題が出題されており、小学校学習指導要領第 5 学年及び第 6 学年「C 読むことの指導事項「カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと」に課題が見られることが分かった。

さらに、東京都教育委員会が実施している平成 25 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の「読み解く力に関する調査」の結果によると、「②比較・関連付けて読み取る力」の正答率が 28.4%、「③意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の正答率が 58.0%となっており、「②比較・関連付けて読み取る力」と、「③意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の定着が著しく低く、特に目的に応じて、本や文章を比較・関連付けて読み取り、自分の考えをまとめることに課題が見られることが分かった。

この要因として、比較・関連付ける力を育てるための指導や、理解・解釈・推論し自分の考えをまとめる力を育てるための指導に課題があることが考えられる。

そこで、複数の資料を比較・関連付けて文章を理解・解釈・推論するための指導の工夫をすれば、児童は目的に応じて自分の考えをまとめることができると考え、研究主題を「比較・関連付けて読んだことを基に自分の考えをまとめる指導法の工夫」とした。

本研究では、比較・関連付けて文章を読み、自分の考えをまとめることの指導の工夫として、比較・関連付けて読む指導の系統性を明確にして計画的に指導することや、比較・関連付ける観点を明確にすること、身に付けさせたい力に適した単元を貫く言語活動の工夫を行う。

研究を進めるに当たっては説明的な文章を取り上げることにした。小学校学習指導要領解説には説明的な文章の解釈に関する指導事項として、「ウ 事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか」読むことが挙げられており、複数の資料の要旨を捉えて、それぞれの事実と感想、意見などを比較・関連付けて読む学習を通して、自分の考えをまとめることができると考えたからである。

II 研究の視点

本研究は、以下の視点をもって取り組む。

【視点1】単元を貫く言語活動の工夫

(1) 単元を貫く言語活動の工夫

比較・関連付けて読んだことを基にして自分の考えをまとめる力を育むために、単元を貫く言語活動の設定及び工夫が必要であると考え。そこで、児童が明確な目的意識をもって文章を読み、読んだことを生かして自分の考えを表現することができる学習活動を工夫する。

(2) 指導過程の工夫

単元の指導過程を考える際、従来は第二次（展開部）で身に付けた力を生かして、第三次（発展部）の学習活動を行ってきた。しかし、その指導過程では、教材文での学びを速やかに活用することができないという課題があった。そこで、第二次で一単位時間内や一単元時間を全て使って教材文の学習で身に付けた力を、他の資料での学習に速やかに活用できるように指導過程を工夫し、身に付けさせたい力の定着を図る。

【視点2】比較・関連付けて読む指導の工夫

(1) 各学年の指導事項を踏まえた比較する事柄や資料の設定

「文章と自分の経験」や「段落と段落」等、比較する事柄や資料を学年の指導事項を踏まえて系統的に設定する（表1）。また、系統性だけではなく、児童の成長の段階や既習事項、興味・関心等も考え、「何と何を」比較させるのかを吟味し設定する。

(2) 関連させる観点の明確化

どの学年においても、「共通点・相違点」を見付けさせて読ませる（表1）。ただし、取り上げる事柄や資料の中で何について関連させるかは学年や学習内容によって異なる。常に、何についての共通点・相違点を関連させるのかを明確にし、児童が自分の考えをまとめられるようにする。

表1 比較・関連付けて読む指導の系統性

◎：重点的に指導すること

		低	中	高	
比較・関連付ける事柄	文章（主たる教材文）と自分の経験	◎	○	○	
	（一つの読み物の中での）段落と段落	○	◎	○	
	文章と他の読み物（図書資料と新聞等）	○	◎	◎	
	文章（主たる教材文）と絵・写真・動画	○	○	◎	
	文章（主たる教材文）と図表・グラフ（非連続型テキスト）	○	○	◎	
比較・関連付ける観点	共通点・相違点		◎	◎	◎

【視点3】評価の工夫

(1) 具体的な評価規準の設定

比較・関連付けて読む力（表2）を明確にし、評価を行う。さらに、単元において比較・関連付けて読む力を具体化した評価規準を設ける。

表2 比較・関連付けて読む力の系統性

低	順序などを考えながら読み、自分の経験と結び付けることができる。
中	目的に応じて、段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて読むことができる。
高	目的に応じて、複数の資料の要旨を捉えて、比べて読むことができる。

(2) 指導と評価の一体化

第三次（発展部）の学習を第二次（展開部）に入れ込む指導を行うことで、教材文を読む学習と他の資料を読む学習を繰り返し位置付け、よりきめ細かく評価する。その中で課題の見られる児童にはつまずきに応じた支援を速やかに行い、必要な力を確実に身に付けさせ次時につなぐようにする。

Ⅲ 研究の仮説

比較・関連付けて読む力を学年の系統性を踏まえて明確にし、読んだことを基に自分の考えを表現する単元を貫く言語活動を充実させれば、自分の考えを広げたり深めたりする力が育つであろう。

Ⅳ 研究の方法

1 基礎研究

平成25年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」や平成25年度「全国学力・学習状況調査」等を参考にして、東京都の児童の比較・関連付けて読み取る力を分析する。

2 調査研究

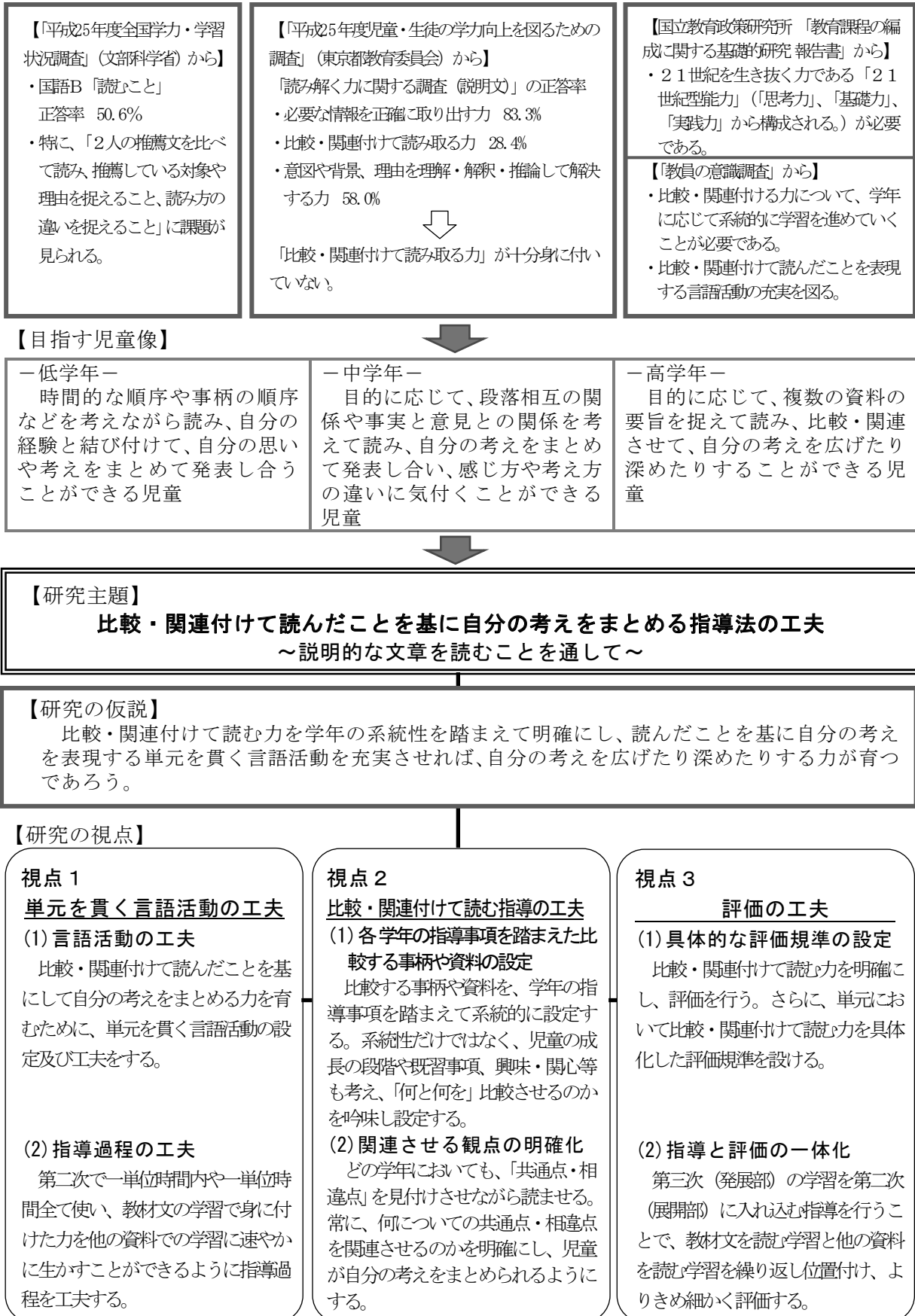
教員に対して「比較・関連付けたことを基に自分の考えをまとめる指導」に関する意識調査を行い、その分析から「比較・関連付ける指導の意識、指導の現状、課題」についての実態を把握する。

3 授業検討・検証授業

教育研究員の月例会や、低・中・高学年分科会において、研究主題に迫るための授業を展開して仮説の検証を図る。

V 研究の内容

1 研究構想図



2 教員の意識調査 [平成 26 年度教育研究員(小学校国語)の所属校 17 校の教員 177 人に実施]
[実施時期 平成 26 年 10 月～11 月]

説明的な文章の指導における「比較・関連付けて読む指導」について、実際にどのように行われているのかを調査し、指導方法の改善に資するため調査を実施した。

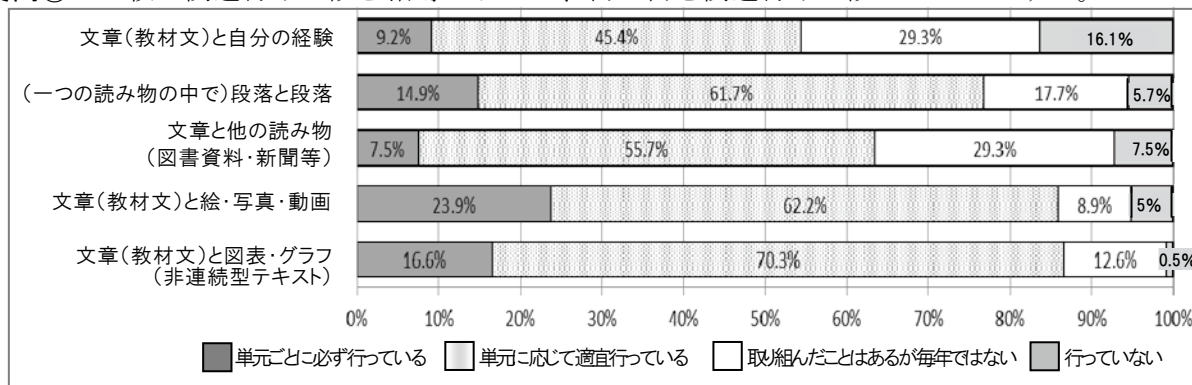
調査項目と結果

(1) 【比較・関連付けて読む指導の実際】

質問① 比較・関連付けて読み取る力をどの単元で育成するか、年間指導計画（国語）の中で位置付けていますか。

位置付けている 48.6%	位置付けていない 51.4%
----------------------	-----------------------

質問② 比較・関連付けて読む指導において、何と何を関連付けて読ませていますか。



質問①の結果から比較・関連付ける力を指導する単元を年間指導計画に位置付けている教員は5割に満たない状況であることがわかる。質問②の結果から「何と何を関連付けているか」については、「文章と自分の経験」「文章と他の読み物」が他の項目に比べ、低い割合を示している。

(2) 【比較・関連付けて読む指導に対する教員の意識】

質問③ 比較・関連付けて読む学習を行う際、指導が難しいと感じることはありますか。

感じることもある 89.4%	ない 10.6%
-----------------------	----------

質問④ 比較・関連付けて読む学習を行う際、指導が難しいと感じる理由を教えてください。

- ・どの教材で設定すればよいのかが分からないから。(53.1%)
- ・何のために比較・関連させるのかが分からないから。(40.8%)
- ・何と何を比較すればよいのかが分からないから。(37.4%)

質問③、④の結果から8割以上の教員が比較・関連付ける指導について難しさを感じていることが分かる。また、理由も多岐にわたっている。

考察

これらの結果から、比較・関連付ける指導に対して難しさを感じている教員が複数いることが分かる。また、難しいと感じる理由から、比較・関連付けて文章を読むことの重要性を周知するとともに、学年に応じてどのような力を身に付けるのかを明確にする必要があると考える。その上で、学年の段階に合わせて比較・関連付ける教材文と資料を選定し、単元を貫く言語活動を工夫すれば、自分の考えをまとめるための指導の充実が図れると考えた。

3 実践研究

本研究は、児童が主体的に自分の考えをまとめる力を育むために、比較・関連付けて読むことが必要だと考え、三つの視点に沿って研究を進めてきた。

【視点1】単元を貫く言語活動の工夫

単元の中で、児童にどんな力を身に付けさせたいかを明確にし、単元を貫く言語活動を選定することが重要だと考えた。中学年分科会（第3学年）では、児童の実態から「文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を引用したり要約したりする」力を付けさせたいと考えた。そこで、「生き物ふしぎブック」を作って生き物の不思議を分かりやすく紹介するという単元を貫く言語活動を設定した。

また、指導過程も工夫し、低学年分科会（第2学年）では、自分の「おしごとクイズを作る」という活動に向けて「どうぶつ園のじゅうい（教材文）」と「自分が選んだ仕事（選択教材）」を1単位時間ごとに交互に読み進めていった。第2学年という成長の段階を踏まえて、教材文を通して学んだことを速やかに自分が選んだ読み物の読みに生かし、活用できるような指導過程を設定した。

【視点2】比較・関連付けて読む指導の工夫

比較・関連付けて読む指導では教材を漠然と比べさせるのではなく、目的に応じて、「何と何を」「どのような観点」で比較・関連付けるのかを常に明確に提示するようにした。また、学年の系統性を踏まえ、児童の実態や主たる教材文の特性や、どのような力を身に付けさせたいかを基に設定するようにした。（P.2表1「比較・関連付けて読む指導の系統性」参照）

（1）各学年の指導事項を踏まえた比較する事柄や資料の設定

高学年分科会（第5学年）では、新聞の投書を教材として読み比べさせた。その際、まず、教材文の同じ話題について書かれている3種類の投書を読み比べさせることにした。次に、自分が実際の新聞から探してきた投書と教材文を読み比べさせた。

（2）関連させる観点の明確化

高学年第一分科会では、関連させる観点として「意見や主張」「構成」「説得の工夫（根拠）」を取り上げ、それぞれの共通点・相違点を読み取らせた。次に、「教材文と自分が新聞から探してきた投書」を同じ観点で比較・関連付けて読み取らせた。比較・関連付けて考える観点を明らかにすることで児童が混乱することなく、考えを整理してまとめられるようにした。

【視点3】評価の工夫

評価の工夫では、各学年で第三次（発展部）の学習を第二次（展開部）に入れ込む指導を行うことで、教材文を読む学習で評価したことを児童が選んだ他の資料を読む学習の指導に生かすことができた。特に、教材文を読む学習で課題の見られた児童には、速やかに支援を行うことができた。評価は、身に付けさせたい力を一単位時間毎に具体化した評価規準を基に行い、前時の評価の状況を活用し速やかに支援できるよう、手立てを用意して授業に臨むようにした。高学年第二分科会では、座席表型の評価補助簿を活用し、毎時間の学習の様子や課題を記録した。どの場面で、どの児童に重点をおいて支援するか計画を立て、単元を通して児童の読みの深まりを確認することができた。

低学年分科会（第2学年）の検証授業

- 1 単元名 『なるほど！びっくり！おしごとクイズ』をつくろう
教材名「どうぶつ園のじゅうい」 植田 美弥 （第2学年）

2 単元の目標

- 「おしごとクイズ」を作って紹介するために、様々な仕事について興味をもって読もうとすることができる。
- 時間的な順序や事柄の順序を考えながら仕事の内容やその仕事をするわけを読むことができる。
- ◎文章の中の大事な言葉や文を書き抜き、自分の経験と結び付けて、思いや考えを伝えることができる。
- 時間の順序を表す言葉や理由付けの言葉を理解することができる。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・「おしごとクイズ」をつくるために、様々な仕事の内容やその仕事をする目的に興味をもって読もうとしている。	・獣医の仕事や自分の興味がある仕事について、時間的な順序や事柄の順序を考えながら内容の大体を読んでいる。（イ） ・クイズの問いや答えに必要な言葉や文を書き抜いている。（エ） ・クイズに選んだ仕事に対する自分の思いや考えを、資料の内容と自分の経験を結び付けてまとめている。（オ）	・時間の順序を表す言葉や理由付けの言葉があることを理解している。 〔イ（ウ）〕

4 教材の特性

「どうぶつ園のじゅうい」は、獣医の仕事内容が「わたし」という視点で語られており、児童にとって理解しやすく読みやすい。児童の好きな動物園の略図、動物たちの写真や絵が随所に登場するので、叙述に即して興味をもって読み進めていくことができる。また、本教材は「はじめ」は話題の提示、「中」は獣医の仕事の内容、「おわり」はまとめという三つの部分から構成されていて、分かりやすい説明文の型となっている。

獣医の一日が日記のように時間を追いかけながら書かれているので、時間的な順序を捉えるのに適している。児童は、これまで知らなかった獣医の仕事について知ることができ、「獣医さんは、動物たちのためにいろいろなことをやっている。」と獣医の努力に思いを寄せながら読むことができる内容である。獣医の仕事を例に、働く人がどのような思いで、どのように仕事をしているのかを知り、自分が知っていることや経験したと結び付けながら読むことで、獣医の仕事に対する思いや努力について読み深めることができるとともに、児童が獣医の仕事について自分の思いや考えをもつことができる教材であると考えられる。

(2) 比較・関連付けて読む指導の工夫

ア 各学年の指導事項を踏まえた比較する事柄や資料の設定

比較する事柄として、「教材文や自分が選んだ読み物に書かれている仕事」と「自分の経験」を取り上げる。低学年において、「文章と自分の経験とを結び付けながら読む」という読み方を身に付けることで、自分の考えをもつための基礎ができると考えた。本単元では、教材文や自分が選んだ読み物に書かれた仕事と、自分が知っているお医者さんや獣医さんの仕事とを比べたり、その仕事に関して見聞きしたこととを比べたりしながら読むようにする。

また、様々な仕事について書かれた読み物は、教材文で学んだ読み方を生かして読めるように、時間的な順序や事柄の順序（今回は、「仕事」「その仕事をする目的」）が分かりやすく表現されているものを用意する。また、児童が自分の経験と結び付けて自分の思いや考えをまとめやすいように、児童の生活に身近で興味をもちやすいものから精選する。

イ 関連させる観点の明確化

教材文や自分が選んだ読み物を読む際には、児童が関心をもった仕事に着目しながら読んでいく。仕事の内容やその仕事をする目的と、自分が見聞きして知っていることや経験したことを結び付けて、関心をもった理由をまとめることで、仕事をする人の思いや工夫、仕事をする事のすばらしさについて理解を深めながら読むことができると考える。比べたことから自分の思いを表現する際には、似ている経験に関しては「ぼくもね」、違う・知らない経験に関しては「わたしはね」という書き出しを用いることで、児童が自分の経験を想起しやすくしたり、表現しやすくしたりする。

(3) 評価の工夫

ア 具体化した評価規準の設定

児童に身に付けさせたい力を明確にして具体的な評価規準を設定し、学習状況を確認する。その際、発表している様子や学習中の様子、クイズに書かれた内容など、多面的な視点から児童の変容の姿を教師が把握できるようにする。

イ 指導と評価の一体化

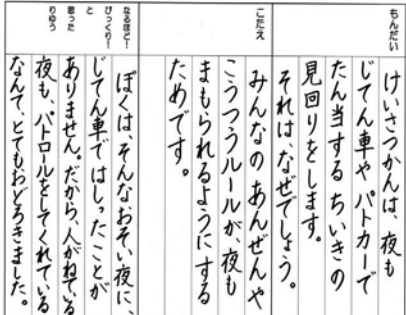
本単元で身に付けさせたい「自分の経験を結び付けて、自分の思いや考えをもつ」という活動をA教材とB教材の学習の中で繰り返し行うことで、複数回評価する場面を設ける。

複数回評価する場面を設けることで、自分の考えをなかなかもてない児童に対して、単元の早い段階でどこにつまずいているのかを捉え、つまづきに応じて指導することによって、全員が自分の考えをもつことができるようになると考えた。

6 学習指導計画（8時間扱い）

次	時	学習活動	手だて	評価規準 (評価方法)
一	1	○「なるほど！びっくり！おしごとクイズ」のモデルを提示し、学習の見通しをもつ。	○教師自作のモデル「なるほど！びっくり！おしごとクイズ」を提示し、学習の見通しをもてるようにする。	
		<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 2px;">「なるほど！びっくり！おしごとクイズ」をつくろう</div> ○「どうぶつ園のじゅうい」を読んで、思ったことを書く。 ○「なるほど！びっくり！クイズ」をつくるために、いろいろな仕事について書かれた読み物を読む。	○獣医さんの仕事の中で、「なるほど！びっくり！」と思うところはどこかを考えて読ませる。	〔関〕いろいろな仕事を紹介された読み物に興味をもち、読もうとしている。 (観察)
二	2	○「どうぶつ園のじゅうい」を読んで、クイズにしたいところを探しながら、「はじめ」(仕事を一言で紹介)、「中」(時系列ごとに6つの仕事)、「おわり」に分け、内容の大体をつかむ。	○具体的な仕事について書かれたところに注目させることで、中のまとまりを捉えるようにする。 ○本文をまとまりごとに色分けし、構成を視覚的に捉えやすくする。	〔読イ〕時間の順序に気を付けて、内容の大体を読んでいる。(ワークシート・発言)
		○「なるほど！びっくり！クイズ」をつくるために、いろいろな仕事について書かれた読み物を読み、どのような仕事があるのかを知る。	○「中」について、時を表す言葉に着目させることで、時間の順序について考えられるようにする。	
	3	○第2段落について、獣医の仕事(毎朝見回ること)やその仕事をする目的を読む。 ○獣医の仕事や動物の様子と自分の経験と結び付けて感想をもつ。	○理由付けを表す接続語や文末表現に着目させることで、仕事をするわけを考えられるようにする。 ○仕事の内容やその仕事をする目的について似たような経験がないか生活を想起させることで、経験を引き出し結び付けられるようにする。	〔言イ(ウ)〕理由付けを表す言葉を理解している。(ワークシート・発言) 〔読オ〕獣医の仕事の内容やその仕事をする目的について、自分の経験と結び付けながら感想をもっている。(ワ

	<p>○「なるほど！びっくり！クイズ」をつくるために、興味がある仕事について、どのような仕事をしているのか、なぜその仕事をするのかを読む。</p>	<p>○「ぼくもね」、「わたしはね」という書き出しを使って感想を書くことで、自分の経験が似ているか、似ていないかを意識できるようにする。</p>	<p>ークシート・発言)</p>
4	<p>○第3・4段落について、獣医の仕事(いのししに機械を当てたこと・さるに薬を飲ませたこと)やその仕事をする目的を読む。</p> <p>○獣医の仕事や動物の様子と自分の経験と結び付けて感想をもつ。</p> <p>○「なるほど！びっくり！クイズ」をつくるために、これまで読んできた仕事の中から、クイズにしたい仕事を決める。</p>	<p>○だれがしたことか主語を確かめさせることで、獣医の仕事を読めるようにする。</p> <p>○仕事の内容を具体的に詳しく読み、獣医の工夫や思いに気付かせることで、自分たちの経験と結び付ける際の観点にする。</p>	<p>〔言イ(ウ)〕理由付けを表す言葉を理解している。(ワークシート・発言)</p> <p>〔読オ〕獣医の仕事の内容やその仕事をする目的について、自分の経験と結び付けて感想をもっている。(ワークシート・発言)</p>
5	<p>○第5・6段落について、獣医の仕事(ペンギンが飲み込んだペンを吐き出させたこと・日記を書くこと・お風呂に入ること)やその仕事をする目的を読む。</p> <p>○獣医の仕事や動物の様子と自分の経験と結び付けて感想をもつ。</p> <p>○「なるほど！びっくり！クイズ」をつくるために、選んだ仕事について、仕事の内容とその仕事をする目的を読む。</p>	<p>○前時までの学習経験を生かし、まずは一人で読むようにする。</p> <p>○理由付けを表す接続語や文末表現に着目させることで、仕事をする目的を考えられるようにする。</p> <p>○仕事の内容を具体的に詳しく読み、獣医の工夫や思いに気付かせることで、自分たちの経験と結び付ける際の観点にする。</p>	<p>〔言イ(ウ)〕理由付けを表す言葉を理解している。(ワークシート・発言)</p> <p>〔読オ〕獣医の仕事の内容やその仕事をする目的について、自分の経験と結び付けて感想をもっている。(ワークシート・発言)</p>

三	<p>○獣医の「なるほど！びっくり！おしごとクイズ」をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・獣医さんの仕事の中から「なるほど！びっくり！」と思った仕事を選ぶ。 ・カードに、①選んだ獣医の仕事（問い）、②獣医がその仕事をする目的（答え）、③自分がその仕事をクイズにしようと思った理由（どんなところに、「なるほど！びっくり！」と思ったか）を書く。 	<p>○「自分がその仕事をクイズにしようと思った理由」の書き方についてモデルを示し、どのようなことを書けばよいか児童が考えられるようにする。</p> <p>○これまで書きためてきた感想を生かすことで、関心をもった理由を自分の経験と結び付けて書けるようにする。</p>	<p>〔読エ〕クイズにする獣医の仕事やその仕事をする目的を書き抜いている。（クイズカード）</p> <p>〔読オ〕関心をもった理由を自分の経験と結び付けて書いている。（クイズカード）</p>
7	<p>○自分が選んだ仕事について「なるほど！びっくり！おしごとクイズ」をつくる。</p> 	<p>○前時に作成した獣医の「なるほど！びっくり！おしごとクイズ」を生かして、<u>自分が選んだ仕事についてもクイズを作る。</u></p> <p>○教材文の学習時に使用したものと<u>同じ形式のクイズカードを用意すること</u>で、教材文での学習が生かされるようにする。</p>	<p>〔読エ〕クイズにする仕事やその仕事をする目的を書き抜いている。（クイズカード）</p> <p>〔読オ〕関心をもった理由を自分の経験と結び付けて書いている。（クイズカード）</p>
8	<p>○「なるほど！びっくり！おしごとクイズ」を友達と交流する。</p>	<p>○クイズを出し合うが、答えだけでなく、友達がなぜその仕事に関心をもったかに着目させることで、それぞれの思いに気付かせるようにする。</p>	<p>〔関〕友達がなぜその仕事を選んだのかに興味をもってクイズに取り組んでいる。（観察）</p>

※太枠内はB教材（児童が自分で選んだ読み物）での学習

児童は、図書館等で関心のある職業について説明している読み物を探して読むことになる。その際、教材文を基にした獣医の「なるほど！びっくり！おしごとクイズ」を作ったときのことを想起しながら、時間的な順序や事柄の順序を考えながら読むことになる。また、目的に応じて大事な語や文に着目して読むことになる。そのため、児童に読み物を探させるときは、授業者が前もって教材文に近い構成の読み物を準備しておく配慮が必要である。

中学年分科会（第3学年）の検証授業

1 単元名 「生き物のふしぎブックを作ろう」

教材名 『農業』 をする魚 新田 末広 （第3学年）

2 単元の目標

- 生き物の不思議な生態について興味をもって読もうとすることができる。
- 「生き物のふしぎブック」を作るために、教材文や並行読書をしてきた本の中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら、内容を的確に読むことができる。
- ◎生き物の不思議な生態について調べたことが、クラスの友達や学校のみんなに分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などに注意して読んだことを基に自分の考えを文章にまとめることができる。
- 文末の表現の仕方によって、様々な意味が伝えられることを理解することができる。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・生き物の不思議な生態に、驚きや疑問をもちながら、進んで読み物を読もうとしている。	・観点をもって段落を読み比べることによって、生き物の不思議な生態について、中心となる語や文に着目し、段落相互の関係を捉えている。(イ) ・生き物の不思議な生態について、理由や事例などを挙げてまとめている。(エ) ・「生き物のふしぎブック」を作るために、様々な本を読み生き物の不思議な生態を捉えている。(カ)	・文末表現の仕方によって、様々な意味が伝えられることを理解している。 〔イ（キ）〕

4 教材の特性

『農業』をする魚は、人間と同じように「農業」を行う魚がいることことを、調べたり観察したりすることを通して説明している文章である。

筆者は、最初、クロソラスズメダイという魚がイトグサという藻を育てていることを聞いても信じない。しかし、最後には、クロソラスズメダイがイトグサを「育てている」という言い方がぴったりだと感じるようになる。それは、クロソラスズメダイという魚がけんめいに「草取り」のような世話をしていることを観察したり、クロソラスズメダイがイトグサを世話できなくするとどうなるのかを確かめたりしたからである。多くの児童にとって興味ある生き物を扱い、知的好奇心が喚起される説明的な文章である。

また、本教材は「話題提示」、「実験・調査」、「まとめ」という分かりやすい三つの構成で

書かれている。「ふしぎな行動」について科学的な手続を経て結論を導き出しているところに児童は内容的興味をひかれるとともに、結論の導き出し方や、筆者の論の展開にも興味をもって読むことができる教材であると考える。

さらに、段落ごとに書かれている内容の共通点が比べやすく、筆者が各段落をどのように関連させて考えをまとめているのかが分かりやすい作品となっていることもこの教材文の特徴である。中学年では、比較・関連付ける事柄として、「(一つの読み物の中で) 段落と段落」を重点的に指導する時期であることから考えても、この教材文は適していると考えた。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 単元を貫く言語活動の工夫

ア 単元を貫く言語活動の工夫

単元を貫く言語活動として、「生き物のふしぎブック」を作ることを位置付けている。児童は『農業』をする魚について観点をもちながら読み、そこで学んだ読みの力を活用して「生き物のふしぎブック」を作成していく。

「生き物のふしぎブック」は、自分が興味をもった生き物の行動や、その行動が行われる理由を紹介するものである。児童は、「生き物のふしぎブック」を作成するために、自分で選んだ資料読み、目的に応じて文章の一部を引用したり、的確に要約したりして情報を整理する必要がある。この活動は、小学校学習指導要領解説の指導事項「イ 目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」につながる活動であると考えられる。また、「エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること」にもつながってくる。自分の「生き物のふしぎブック」を作成し、クラスの友達や学校のみんなに紹介するという単元を貫く学習活動を設定することで、引用や要約という活動の目的がはっきりし、児童が主体的に取り組むことができると考える。

生き物のふしぎブックの構成は次のとおりである。

構成	内容（教師の手本の例）
①生き物のふしぎな行動の紹介	行列をつくるアリ
②生き物の紹介	アリの特徴
③生き物のふしぎな行動について調べたことと分かったこと	アリが行列をつくるわけ
④生き物のふしぎな行動に対する自分の考え	アリのふしぎな行動について思ったこと、考えたこと

イ 指導過程の工夫

教材文『農業』をする魚を比較・関連付ける観点に基づいて読む学習活動と、自分の調べたい生き物について資料を使って読む学習活動を一単位時間の中に設定する。そのことによって、児童が教材文で学んだ学習内容を自分の選んだ生き物の資料を読むときにすぐ活用することができると考えた。

【児童が作成した生き物のふしぎブック(表面)】

観点①
教材文の筆者が、調べたいと思った理由（生き物の不思議な行動）を挙げたように、児童も調べたいと思った理由を挙げる。

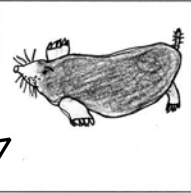
生き物のふしぎな行動のしょうかい

なぜモグラはまい子にならないのか？

ぼくは、モグラについて、2つのぎもんがあります。
1つめは、どのようにしてトンネルじょうの大きなすを
作るのかということです。
2つめは、その大きなすの中で、行ったり来たりして
るのに、どうしてまい子にならずに目的地にたどり
つけるのかということです。

生き物のしょうかい

モグラの生たい



モグラ(マズメグラ)の体長は、
12cm～16cmくらいです。
体の色は茶色です。目は、光を
感じることはできませんが、形を
見分けることはできません。体重
は、70gくらいです。

※探してきた資料を、そのまま書き写すのではなく、教材文を読んだときの観点で生き物の特徴が書いてある段落を注意して読み、生き物の不思議な行動に関わる体の特徴や生活の仕方について整理してまとめるようにする。

※第二次で、並行読書をして調べたことを作品にまとめていく。

第一次では、教師が自作した「生き物のふしぎブック」を紹介することで、学習への興味・関心をもたせるとともに単元の見通しをもたせる。また、児童の作成した「生き物のふしぎブック」は、学校図書館に置き学校内のみんなに読んでもらうということも知らせ、児童の活動への意欲を高める。

第二次では、教材文『農業』をする魚』に書いてある事柄について教師が観点を示して読み進める。並行読書でも同じ観点で読み進め、書きためてきたメモや、資料から引用したり要約したりしたことを基に、自分の考えを整理して、教材文の構成を参考に「生き物ふしぎブック」を作成する。

第三次では、作成した「生き物のふしぎブック」を友達と発表し合い、よいところや自分の感じ方と違うところに着目させる。

(2) 比較・関連付けて読む指導の工夫

ア 各学年の指導事項を踏まえた比較する事柄や資料の設定

今回、中学年では、比較・関連付ける事柄として、「(一つの読み物の中で)段落と段落」を重点的に扱った。一つの観点をもって段落同士を読み比べることによって、各段落に書かれている内容の共通点や相違点に気付く。そのことによって、段落相互の関係を捉えることができると考えた。

イ 関連させる観点の明確化

比較・関連付ける観点はできるだけ具体的なものにした。例えば、段落同士を読み比べる際には、「生き物のふしぎな行動について説明している段落はどこか」、「生き物の紹介について書いている段落はどこか」、「生き物のふしぎな行動について調べたことを書いている段落はどこか」、「筆者の考えが書かれている段落はどこか」等の観点を与えた。そのことで、段落ごとに書かれている内容の共通点・相違点を見付け、段落のまとまりを捉えることができると考えた。

(3) 評価の工夫

ア 具体化した評価規準の設定

児童に身に付けさせたい力を明確にして評価規準を設定した。その際、ワークシートの内容等を確認し、身に付けさせたい力の把握が明確にできるようにする。その際、発表している様子や学習中の様子、ワークシートに書かれた内容など、多面的な視点から児童の変容の姿を教師が把握できるようにする。

イ 指導と評価の一体化

実際の児童の姿を基に評価することによって、児童の目指すべき姿が分かりやすくなると考える。また、毎時間の評価規準を板書などで児童に具体的に明示することで、自分の考えをもつ際や、児童同士の交流の際に、自らの考えを見直しながらまとめることができると考えた。

さらに、「段落と段落を結び付けて、自分の思いや考えをもつ」という活動をA教材(教材文)とB教材(児童が自分で選んだ読み物)のそれぞれの学習で繰り返し行うことで、複数回評価する場面を設ける。複数回評価する場面を設けることで、段落と段落を結び付けて自分の考えをもてない児童に対して、単元の早い段階でつまづきを捉えて指導することによって、全員が自分の考えをもつことができるようになると考えた。

6 学習指導計画(9時間扱い)

次	時	学習活動	手だて	評価規準(評価方法)
一	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「生き物のふしぎブック」を作ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ○教材文を通読し、ふしぎだな、おもしろいなと思ったところを書く。 ○単元の学習計画を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「生き物のふしぎブック」の見本を教師が提示し、学習への意欲を高めるとともに具体的な作成物を示すことで、学習の見通しをもたせる。 ○自分の「生き物のふしぎブック」を作るために、調べたい生き物について書いてある資料を探すように声かけをする。また、朝読書の時間に、これらの資料を読むようにさせる。 	<p>〔関〕生き物のふしぎについて楽しみながら読み、自分の経験と比較しながら、不思議だな、おもしろいなと思っているところを書いている。(観察・発表・ワークシート)</p>
二	2	<ul style="list-style-type: none"> ○「生き物のふしぎな行動について紹介しているところはどこか」という観点で教材文を読み、サイドラインを引く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クロソラスズメダイのふしぎな行動が、最初に書いてあるところに着目させる。 	<p>〔読イ〕生き物のふしぎな行動について紹介しているところを的確に読んでいる。(観察・発表・ワークシート)</p>

	<p>○「生き物のふしぎブック」を作るために、並行読書の資料を「生き物のふしぎな行動について紹介しているところはどこか」という観点で読み、付箋を貼る。</p>	<p>○並行読書の中から、生き物のふしぎな行動について書いているところを探しながら読ませる。</p>	
3	<p>○「ふしぎな行動に関わる生き物の紹介をしているところはどこか」という観点で教材文を読み、サイドラインを引く。</p>	<p>○クロソラスズメダイやイトグサについて紹介しているところに着目させる。</p>	<p>〔読イ〕 ふしぎな行動に関わる生き物の紹介をしているところを的確に読んでいる。 (観察・発表・ワークシート)</p>
	<p>○「生き物のふしぎブック」を作るために、並行読書の資料を「生き物の紹介をしているところはどこか」という観点で読み、付箋を貼る。</p>	<p>○並行読書の中から、生き物の紹介について書かれているところを探しながら読ませる。</p>	
4	<p>○「生き物のふしぎな行動について調べたことと分かったことについて書いてあるところはどこか」という観点で教材文を読み、サイドラインを引く。</p>	<p>○クロソラスズメダイのふしぎな行動についてどんな実験をしたのかが書いてあるところに着目させる。</p> <p>○クロソラスズメダイのふしぎな行動について、どんな実験をしたのかが書いてあるところに着目できない児童には、探す段落を示す。</p>	<p>〔読イ〕 生き物のふしぎな行動について調べたことと分かったことについてかいてあるところに的確に読んでいる。(観察・発表・ワークシート)</p>
	<p>○「生き物のふしぎブック」を作るために、並行読書の資料を「生き物のふしぎな行動について調べたことと分かったことについて書いてあるところはどこか」という観点で読み、付箋を貼る。</p>	<p>○並行読書の中から、生き物のふしぎな行動について調べたことと分かったことについて書かれているところを探しながら読ませる。</p>	

5	<p>○生き物のふしぎな行動に対する筆者の考えが書かれているところと、その根拠となっているところを表にまとめる。</p> <p>○表にまとめて気付いたことを書く。</p>	<p>○クロソラスズメダイの草取りについて筆者の考えたことや思ったことが書かれているところに着目させる。</p> <p>○文末表現に「思う」「感じる」と書かれているところに着目させる。</p> <p>○生き物のふしぎな行動について、実験して分かったことが書かれているところに着目させる。</p> <p>○上記の二点の部分に着目できない児童については、探す段落を示す。</p>	<p>〔読イ〕 実験して分かったことを根拠として、生き物のふしぎな行動についての筆者の考えが述べられていることに気付いている。(発表・観察・ワークシート)</p> <p>〔言イ(キ)〕 筆者の考えが書かれているところの文末表現について理解している。(発表・観察・ワークシート)</p>
6	<p>○「生き物のふしぎブック」を作るために、並行読書の資料の生き物のふしぎな行動について分かったところと、自分なりの考えを表にまとめる。</p>	<p>○付箋の貼ってあるところを基に、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、目的に応じて文章を引用したり要約したりして考えさせる。</p>	<p>〔読エ〕 資料から分かったことを根拠として、生き物のふしぎな行動について自分なりの考えをまとめている。(発表・観察・ワークシート)</p>
三 7 ・ 8	<p>○「生き物のふしぎブック」を作成する。</p>	<p>○付箋を貼ったところや、そこに書いたメモを基に書かせる。</p>	<p>〔読エ〕 生き物のふしぎな行動について分かりやすく伝えるために、理由や事例などを挙げて書いている。(ワークシート)</p>
9	<p>○「生き物のふしぎブック」を発表し合い、分かったことや思ったことを伝え合う。</p>	<p>○ワークシートに評価の観点を明示する。</p>	<p>〔読カ〕 自分と友達の生き物を比べて、生き物の不思議な生態の違いを書いている。(発表・ワークシート)</p>

※太枠内はB教材（児童が自分で選んだ読み物）での学習

児童は、図書館等で関心のある生き物について説明している読み物を探して読むことになる。その際、教材文を読んだときの観点を想起しながら、自分の「生き物ふしぎブック」に必要な情報を探して読むことになる。そのため、児童に読み物を探させるときは、授業者が前もって教材文を読んだときの観点を読める読み物を準備しておく配慮が必要である。

高学年第一分科会（第5学年）の検証授業

- 1 単元名 「届けようわたしの意見 ～説得の工夫を読み取ろう～」
教材名「新聞の投書を読み比べよう」（第6学年）

2 単元の目標

- 投書に興味をもち、自分の意見の根拠となる資料をすすんで集めることができる。
- 複数の投書を読み比べて、読み手を説得するための工夫を読むことができる。
- ◎投書から読み取ったことや、自分で調べたことを根拠として、自分の考えをまとめることができる。
- 投書にはいろいろな書き方があり、目的に応じた構成があることを理解することができる。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・投書に興味をもち、進んで投書を集めたり、自分の意見を投書に書いたりしようとしている。	・三つの資料を構成や書き手の意見、説得の工夫を取り出して読み比べている。(イ) ・書き手の意見について、自分の意見との共通点や相違点を考えながら読み、自分の考えをまとめている。(イ)	・投書にはいろいろな書き方があり、目的に応じた構成があることを理解している。〔イ(キ)〕

4 教材の特性

「新聞の投書を読み比べよう」は同じテーマに対する新聞の三つの投書を読み比べ、書き手の意見や主張、読み手を説得するための根拠の挙げ方の工夫を読み取ったり、読み取ったことを基に意見文を書くための構成や表現の仕方を学んだりすることをねらいとしている。

本教材は第6学年1学期の教材であるが、第5学年でも学習できるようにするため以下の二つの工夫をした。始めに、四つの投書文の読み比べを三つの投書文の読み比べに減らした。次に、日常の活動で新聞スクラップを行い、新聞を読むことになれる指導を行った。

ここで取り上げられている三つの投書は、書き手の年齢層や考えが異なり、さらに「自分の経験」、「実際に見たり聞いたりしたこと」、「資料に基づく具体的なデータ」を根拠としており、資料同士を比較・関連付けながら読む学習に適している。

筆者の主張が明確な教材文同士を内容面、構成面、表現等に注目しながら比べて読むことで、児童はそれらの視点での分析や評価ができるようになる。また、学習した視点で自分が選んだ投書を読み、教材文と自分の経験を比較しながら読むこともできる。読み取ったことを基に自分の考えをもち、意見文を書いて発信するという活動を通して、日常の中で生きて働く言葉の力を高めることを目指している。

5 研究主題に迫るための手立て

(1) 単元を貫く言語活動の工夫

ア 単元を貫く言語活動の工夫

単元を貫く言語活動として投書を読んで、読んだことを基に自分の考えをもち、「意見文を書く」こと（「読むこと」(2)イ・「書くこと」(2)イ）を設定する。自分の意見を発信する際に「投書」という手段があることを知り、新聞の投書を読み、「自分たちも意見文を書いて届けよう」と呼び掛け、児童が一貫した目的意識をもって学習に臨むことができるようにする。

まず、教材文を読み、投書の構成や内容を学習する。次に、学習したことを生かして自分の選んだ新聞の投書を読み取る。最後に、新聞の投書を読んで自分の考えをもち、学習した説得の工夫を活用して、自分の考えを投書として広く発信する活動を行う。学習の見通しをもたせることで、児童は意欲的に、様々な投書を読み、書き手の目的や主張に応じた、読み手を説得するための工夫を読み取り、構成の工夫や根拠の挙げ方、表現の仕方を習得して、自分の投書に生かせると考えた。

イ 指導過程の工夫

教材文での学習を全て終えた後に、自分で選んだ新聞の投書を読むという過程ではなく、教材文を読み、投書の構成や表現の工夫などを学習しながら、自分の選んだ新聞の投書を並行して読むという学習を繰り返す指導過程とした。このことで、教材文で学んだことを速やかに自分が選んだ投書への読みに生かし、活用できるようになると考えた。

(2) 比較・関連付けて読む指導の工夫

ア 各学年の指導事項を踏まえた比較する事柄や資料の設定

以下の三つの事柄や資料の比較を学習計画の中に取り入れた。

・「教材文同士の比較」

同じ話題についての三つの投書を読み比べることによって、それぞれの投書の書き手の主張や、読み手を説得する根拠の挙げ方がどのように書かれているのかを相互に関連付けて読み取ることができる。

・「教材文と自分で選択した新聞の投書との比較」

教材文で学習した視点で、自分で選んだ新聞の投書を読み、書き手の目的や主張に応じた、読み手を説得するための工夫がどのようになっているのかを比較することで、学んだ投書の構成や内容を活用できると考える。

・「自分の経験」

自分の考えを投書にまとめる際に、これまでの投書の読み比べを通して学んだ読み手を説得するための工夫を生かすようにする。自分が選んだ投書に対する考えを、具体的に伝えるために、自分の経験と比較・関連付けながら表現させていく。

イ 関連させる観点の明確化

「教材文同士の比較」「自分で選択した新聞の投書との比較」では、筆者の主張、構成、説得をするための工夫についての共通点・相違点を関連させることとした。教科書や新聞の投書の色分けしたり、色分けした学習シートを使用して観点を明確にしたりできるよう工夫した。また、「自分の経験」との比較では、自分が選んだ投書に書いてある内容と自分の経験との共通点・相違点を考えさせることを関連させることとした。比較・関連付けた自分の経験を投書の中に取り入れることで、より具体的で説得力のある内容になることを指導した。

【「教材文同士の比較」の例】

	根拠	筆者の主張
教材文の投書①	<p>君君の場合、たやひじ、ひびなどい負担がかかり、体をこわしやすから。</p>	<p>体に無理な負担をかけてまでスポーツをすることはない。</p>
教材文の投書②	<p>自分の経験 試合に勝つことで選手は大きな喜びや満足、名誉を得られるから。</p>	<p>スポーツは勝利を求めてやるからこそよい。試合に勝らなければ、選手は練習をこそ、選手は練習を積んで体をきたえ、技術を進歩させることができたから。</p>
教材文の投書③	<p>見(つ)聞(いた)り(し)た(こ)と きつい練習はだとしてスポーツがなくなってしまう</p>	<p>厳しい練習、試合に勝つ一生の間、スポーツは、楽しむこと、保つのに大切だ</p>

① 3つの投書をそれぞれ読む。筆者の主張が、どのような根拠に基づいているのかを読む。

② それぞれの筆者の主張を比べて、共通点と相違点に着目する。根拠についても、実際に経験したことなのか、聞いたことなのか、何に基づいて挙げているのかを読む。

③ 読み手を説得する根拠の挙げ方について、①と②を相互に関連付けて分かったことをまとめる。

※「学習シート」の一部より

(3) 評価の工夫

ア 具体化した評価規準の設定

児童に身に付けさせたい力を明確にして一時間ごとの評価規準と支援を設定した。その際、座席表型の評価補助簿を活用し、前時までの学習の様子から本時の指導の重点を記入しておく。

イ 指導と評価の一体化

振り返りカードを作成し、毎時間の学習の振り返りを行う。児童の振り返りを確認し、次時の導入で紹介するなどして次時の指導に生かす。

さらに、本単元で取り入れたA教材（教材文）とB教材（児童が自分で選んだ読み物）の学習を繰り返すという指導過程について、児童にも分かりやすく見通しをもたせて自己評価させることによって、全員が自分の考えをもつことができるようになることを考えた。

【「振り返りカード」の記入例①】

6	5	4	3	2
・自分で選んだ投書に 対する自分の考えを まとめる。	・投書に対する自分の 考えをまとめる。	・自分で集めた 投書の内容や構成 を読む。	・三つの投書を 読み比べる。	・投書の内容や 構成を読む。

投書スクラップ

各時間の目当てを明確にすることで、教材文の投書と自分で集めた新聞の投書を交互に読むことができる。

【「振り返りカード」の記入例②】

それぞれの投書の同じところやちがうところを見つけられてよかった。投書①②③はいろいろな根拠で読者を説得してきて驚いた。

みんな具体例が入っていて、意見がわかりやすかった。自分の経験を入れるといいとわかった。同じ投書を読んでも意見がちがう友達もいた。

各時間で明らかになったことについて、どのように感じたかを書く。読むこのとき、常に共通点や相違点を意識することが分かった。記述になっている。

6 学習指導計画（8時間扱い）

次	時	学習活動	手だて	評価規準（評価方法）
一	1	○新聞の投書について知り、単元の見通しをもつ。		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">届けようわたしの意見 ～説得の工夫を読み取ろう～</div> <p>○投書スクラップの方法を知り、スクラップを始める。 ○最後に自分の意見をまとめて投書にして、友達に届けることを確認する。</p>	<p>○学習計画表を提示し、学習の見通しをもたせる。 ○実際の投書を紹介することで投書に興味をもたせるとともに学習への意欲を高める。</p>	<p>〔関〕投書について知り、進んで投書を集めようとしている。（観察・学習シート）</p>
二	2	○教材文の投書①②を読む。 ○教材文の投書①②を読み、書き手の意見や主張、根拠、文章の構成を読み取る。	<p>○項目ごとに色分けしてサイドラインを引かせる。 ○サイドラインと同じ色分けの学習シートを使用し、構成を分かりやすくする。</p>	<p>〔言イ（キ）〕投書にはいろいろな書き方があり、目的に応じた構成があることを理解している。 （観察・学習シート） 〔読イ〕投書の特徴をとらえ、投書の構成や内容を読み取っている。（学習シート）</p>
		<p>○教材文の投書③を読んで前時に学習したことを生かして書き手の意見や主張、根拠、投書の構成を読み取る。 ○読み手を説得するための工夫について考える。 ○三つの投書を比較する。</p>	<p>○前時の学習を想起できるよう学習シートや教材文を掲示しておく。 ○完成した表を使って理由の述べ方に違いがあることに気付かせる。</p>	<p>〔読イ〕学習したことを生かし、投書の構成や書き方を自分で読み取っている。 （観察・学習シート）</p>

	4	<p>○投書に自分の意見をまとめるために、自分で集めて選んだ新聞の投書を読み、書き手の主張、根拠、投書の構成を読み取る。</p> <p>○選んだ投書について、友達と交流する。</p>	<p>○構成が分かりやすいよう色分けをしながら自分が選んだ投書を読む。</p>	<p>〔読ウ〕教科書の投書と比較し、関連付けながら投書の構成や書き方の工夫を読み取っている。</p> <p>(学習シート)</p>
	5	<p>○教材文の投書①～③の中から一つを選び自分の考えをまとめる。(200字以内)</p>	<p>○今までの学習を教室掲示や学習シートを参照しながら振り返らせる。</p> <p>○説得をするための工夫を生かして書くよう確認する。</p>	<p>〔読ウ〕書き手の意見について自分はどうか考えるのかを意識して読み、それぞれの書き手の説得の工夫を捉えている。</p> <p>(学習シート)</p>
	6	<p>○投書に自分の意見をまとめるために、実際の新聞の投書を読み、その内容に対しての考えをもつ。</p>	<p>○今までの投書スクラップを見ながら、自分の考えを広げたり深めたりして、どのような内容の投書にするか考えさせる。</p>	<p>〔読オ〕今までの学習を生かして、書き手の主張とその根拠を読み取り、自分の意見をまとめている。</p> <p>(学習シート)</p>
三	7	<p>○構成に気を付け、交流のための学級新聞の投書欄に合う字数(400～600字)で自分の意見をまとめる。</p>	<p>○構成に気を付けて、限られた字数で自分の考えをまとめることを確認する。</p> <p>○考えをまとめる際は、これまでの投書で学んだ説得の工夫を生かすように伝える。</p>	<p>〔読ウ〕読み取った構成や説得の工夫を生かして自分の考えを投書にまとめている。</p> <p>(投書)</p>
	8	<p>○友達と投書を読み合い、交流する。</p>	<p>○友達の投書を今までの投書と比較しながら読み、思ったことや考えたことを伝え合うようにさせる。</p>	<p>〔読オ〕自分の考えと比較したり、今までの投書の種類と関連付けたりしながら交流して、自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>(観察・振り返り)</p>

※太枠内はB教材(児童が自分で選んだ新聞の投書)での学習

児童は、図書館や家庭で新聞の投書欄を開き、関心のある話題についての投書を探して、その投書に書いてある意見文や紹介文を読むことになる。その際、教材文の中にある三つの投書を読んだときの観点を想起しながら、自分が投書の文章を書くときに必要な情報を探して読むことになる。このときの必要な情報とは、筆者が読み手を説得するために工夫している文章の構成や、事例の取り上げ方である。筆者が事例を基にして、どのように自分の考えを広げたり深めたりしているかを読み、考えの広げ方や深め方についても学ぶため、児童が選んだ投書が本単元のねらいに即しているか授業者が事前に確認する配慮が必要である。

VI 研究の成果と課題

【全体の成果と課題】

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ○ 比較・関連させる事柄や資料を、児童の成長の段階や付けたい力に応じて精選し、系統立てて指導したことにより、児童に目的に応じて自分の考えを焦点化させて整理する仕方を身に付けさせることができた。 ○ これまで第三次で行うことが多かった展開部で学んだことを活用する発展部の学習を、第二次の展開部に入れ込むように意図的に指導計画を組んだことにより、児童は教材文で学んだ読み方を、自分が選んだ読み物を読むときに速やかに生かすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 比較・関連付けて読むことをより有効にするためには、資料を読ませる際に「何についての共通点・相違点か」という観点のもたせ方を更に具体的に指示することが必要である。 ○ 読み比べることや自分の考えをまとめることが苦手な児童に対して、前時の評価を基にした個に応じたきめ細かい指導の工夫や、交流活動を生かした児童相互の高め合いなど、更なる手立てが必要であることが分かった。

【各分科会の成果】

	成 果
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 比較する資料として、児童の生活に身近な興味をもちやすいものを精選したことや、「ぼくもね」「わたしはね」という書き出しを使い似ている経験や違う経験を想起しやすくしたことにより、児童は自分の経験と結び付けて文章を読むことができた。 ○ 単元導入時では、自分が関心をもった理由を「大変だから」や「すごい」と一言で表現する児童が多かった。そこで、指導計画の第二次に教材文と自分で選んだ読み物を比べて、関心をもった理由をまとめる学習活動を繰り返し行い、教材文で学んだ読み方を速やかに活用した。結果、授業者は評価と支援を繰り返すことができ、全児童が「おしごとクイズ」の関心をもった理由を書く欄に、自分の経験と結び付けてまとめた内容を書くことができた。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元を貫く言語活動を「生き物のふしぎブックを作ろう」とし、自分の選んだ生き物の不思議な行動について調べ解決していくという活動を設定したことで、自主的に学習を進めることが苦手だった児童が、目的意識をもって主体的に単元全体の学習に取り組むことができた。 ○ 第二次の学習で、「生き物のふしぎな行動について説明している段落はどこか」「生き物の紹介について書かれている段落はどこか」など、比較・関連する観点をもって読むことで、段落同士を関連させながら読み進めることが苦手だった児童が、段落相互の関係に気付き、文章構成を意識しながら文章を読めるようになった。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材文にある3つの投書を、「構成・説得の工夫・内容についての共通点や相違点」という明確な観点をもたせて読み比べたことにより、児童は投書の特徴を捉え、内容を正確に読み取ることができた。また、自分の考えをまとめて、投書を書く際のポイントについても学習することができた。また、他の単元の学習においても観点をもって読み、読んだことを自主的に表にまとめることができていた。 さらに、「～がすごい。」「～がよかった。」という感想だった児童が、文章を読む際に自分の経験と比較しながら読むことにより、「○○も～だった。」「○○だったら～したい。」等、自分の考えを広げたり深めたりしてまとめられるようになった。 ○ 第二次の中に自分で選んだ読み物を扱う時間を意図的に取り入れたことにより、教材文で学習したことを自分で選んだ読み物を読むときに速やかに活用できた。 また、自分で選ぶ読み物として、実際の新聞の投書を用いたことにより、児童自身の生活や思い、社会の動きに即した学習を進めることができ、児童の主体的な学習につながった。

平成26年度 教育研究員名簿

小学校・国語

低学年分科会（第1学年・第2学年）

地区	学校名	職名	氏名
福生市	福生第五小学校	主任教諭	拝原 奈穂実
多摩市	西落合小学校	主幹教諭	橋本 陽子
墨田区	第四吾嬬小学校	主任教諭	☆朽木 良美

中学年分科会（第3学年・第4学年）

地区	学校名	職名	氏名
世田谷区	松丘小学校	主任教諭	久保田 直人
荒川区	峡田小学校	主任教諭	○☆中嶋 康彦
大田区	館山さざなみ学校	主任教諭	若槻 篤志
江戸川区	平井西小学校	主任教諭	小川 陽介

高学年第一分科会（第5学年）

地区	学校名	職名	氏名
世田谷区	松沢小学校	主任教諭	鈴木 芙美子
豊島区	池袋本町小学校	主任教諭	☆羽賀 絹恵
足立区	舎人第一小学校	主任教諭	◎森 広貴
調布市	滝坂小学校	主任教諭	伊藤 紗代

高学年第二分科会（第6学年）

地区	学校名	職名	氏名
文京区	千駄木小学校	主幹教諭	原 梨絵
墨田区	両国小学校	主任教諭	伊坂 温子
江東区	東川小学校	主任教諭	石井 暁子
渋谷区	幡代小学校	主任教諭	☆平間 詩乃
町田市	町田第二小学校	主任教諭	井上 さやか
西東京市	向台小学校	主任教諭	秦 美穂

◎全体世話人 ○全体副世話人 ☆分科会世話人

[担当] 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課

指導主事

馬場 一平

平成26年度
教育研究員研究報告書

小学校・国語

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成26年度第186号〕
平成27年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 正和商事株式会社